

## 令和２年度第４回朝倉市復興推進委員会 議事要旨

### 1) 日時

令和２年１２月１日（火） 10:00～11:30

### 2) 場所

旧甘木・朝倉市町村会館 大会議室

### 3) 参加者

別紙参照：第４回朝倉市復興推進委員会 配席表

### 4) 式次第

- １．開会
- ２．市長挨拶

本日は第４回朝倉市復興推進委員会に公私共にお忙しい中にご出席いただき感謝申し上げます。

未曾有の被害をもたらした平成２９年７月九州北部豪雨災害から３年５ヶ月を迎えようとしている。

私は、就任当初から、「ふるさとあさくらを取り戻す」の理念のもと、復旧・復興に全力で取り組んでいる。

本年度は、「復興計画」において、復旧期から再生期に移行する段階、ひいては地域の活力を回復し、地域の価値を高める段階に入っている。

河川、砂防、治山等の復旧は、関係機関のご尽力と地域の皆様のご協力のもと、復旧工事に取り組んでいる。

改良復旧となる河川では、用地協議と並行して、河川工事が本格化しており、復旧の加速化が、おおいに期待される。

また、生活再建支援については、９割を超す被災者の再建が進んできたが、今後も最後のお一人までフォローアップをしっかりと進めていく。

本委員会については「生活再建の取り組み」「災害復旧事業の取り組み」「復興の取り組み」の３本だてで、報告や提案、協議をしていく。

特に「復興の取り組み」については、本年度、施策の具体化を進めるため、「復興実施計画」の策定に取り組んでおり、本日は、その骨子を中心に議論いただきたい。

あわせて、本推進委員会の令和３年度以後も含めた今後の進め方についても、事務局から説明する。

また、本委員会を通じて、復旧・復興の現状と今後の方針を広く市内外に発信していきたいと考えている。

復旧・復興は、冒頭にも申し上げましたとおり、市民の皆様、市内関係機関の皆様のご理解そしてご協力があってこそ、成し得るものです。そのご理解とご協力を礎に、朝倉市一丸となり、勇往邁進の意気込みで、復旧・復興に精進していきたい。

### 3. 新委員紹介

- ・新委員は以下の通り。

松末地域コミュニティ協議会	高倉 保之
杷木地域コミュニティ協議会	秦 正育
朝倉地域コミュニティ協議会	篠崎 英一
朝倉市小学校PTA連合会	本高 裕美
朝倉市中学校PTA連合会	牧野 美和

### 4. 議事

- ・市（事務局）より(1)～(3)を説明した。

- (1) 生活再建の取組み
- (2) 災害復旧事業の取組み
- (3) 復興の取組み（復興実施計画の骨子案について）
- (4) その他

## 5) 議事要旨

### 【質疑応答】

#### (1)生活再建の取組みについて

- ・特になし

#### (2)災害復旧事業の取組みについて

（委員）災害復旧事業は予定通り発災から5年で打ち切りになるのか。残り1年半で終わることができるのか。

（復興推進室）制度上はそうになっている。残り期間はあと1年半となり、事務局も懸念しているが、各事業者は計画期間内での終了を目指して努力されている。出水期を避けての実施となるが、令和4年度の出水期までには終わらせたい。

（委員）久喜宮の船底谷川の山腹で崩壊が発生し、年々山腹崩壊が広がっており懸念される。どのように復旧事業は進んでいくのか。また、寒水川上流は、平成30年も令和2年も被災し、被害が拡大している。既に様々な事業を実施していただいているが、防災の観点から今後どのように復旧事業は進んでいくのか。

（復興推進室）寒水川上流では、福岡県による砂防ダムの建設が進んでいる。船底谷川の山腹崩壊に関しては、被災状況については、コンサルタントや有識者による調査を実施した。その結果を受けて、今後関係機関と相談し対応していく。

（委員）寒水川の川底には、今も大量の土砂が堆積している箇所がある。今のよ

うな降雨量が少ない時期に対応してほしい。

(復興推進室) 早急に対応したい。

(委員) 道目木地区の復旧事業について、これからも地域に入って復旧事業は進んでいくと理解している。これからも地域に対して、進捗報告や相談や説明等の話し合いの場をもってほしい。

(復興推進室) 同地区については、計画が遅くなってしまった。関係機関と調整を急ぎ対応したい。

(委員) 桂川から筑後川にかけては何も復旧事業が実施されていないが、これまでに3回被災し、水流が速くなっている。何か対策を講じてほしい。

(復興推進室) 桂川の最下流部の蜷城地区では堤防を越えて水が入ってきた。今年は筑後川の水位が最大となり、桂川にも影響が出たため水門で調整した。筑後川・桂川の改修は進んでいる。以前から内水・浸水地域であったため、佐田川下流について大刀洗町と共に国交省に改修計画の要請をしている。

#### (3)復興の取組みについて（復興実施計画の骨子案について）

(委員) 朝倉インターチェンジの利便性向上は大変ありがたい。一方で駐車台数が15～20台だと少ない。利用効果を見極めて、拡大してほしい。

(復興推進室) 各部署に繋いでいきたい。

(委員) 計画の策定はありがたい。今後はその計画を円滑に実施してほしい。復旧期と再生期で分かれているが、復旧期に関しては減速しているように感じる。10年間の中でぜひ復旧事業を進めてほしい。

(復興推進室) 令和2年度以降の復旧期も力強く進めたい。

(委員) 防災拠点施設には避難所の機能も含まれているのか。

(復興推進室) 久喜宮地区の例をあげると、隣の体育館が避難所となり、防災拠点施設には、炊き出し機能を持つ。平常時から利用できる防災研修室所も備えている。

#### (4)その他

(委員) 伝承の内容は被災状況だけでなく、被災の教訓も必要ではないか。例えば、当時ボランティア受け入れに大変苦労した。また、ボランティアの受け入れ先が無く人手が余っていたため、公的な場所の水路の清掃を依頼したかったが、個別住宅優先といわれた。このような手続きなども改善できるのでは。被災の教訓を朝倉から発信してほしい。

(復興推進室) おっしゃる通りである。平成29年度の災害を受けて、社会福祉協議会と協定を結んだ。今後は、中間支援組織の必要性も認識しているので、広域的に伝えていきたい。

(委員) 毎日、筑後川沿いを散歩している。土砂の堆積が目立ち、支川からの水がスムーズに流れていないように見える、対策を講じてほしい。

(復興推進室) 国交省の対応となるため、引き続き要望していく。

(復興推進室) 次回の開催(2月頃)については、追って事務局から連絡する。